

に努めたいと考えている。

### ◎町道の改善について

#### ○町道成川今在家線について

○国道320号が整備済みであり、また、交通量等を考慮して、現在の中期行財政計画には計上していない。現在、中期行財政計画に計上している路線の改良事業も、国、県、町の財政事情により凍結の状況となつていて、これを考えると、この路線の改良は、困難な状況であると言わざるを得ない。今後は、側溝の清掃や補修等により、維持管理を行っていきたいと考えている。

#### ○町道下鍵山線について

○全延長が約1,000mであり、平成18年度から城川町方面へ向け改良を行っている。平成20年度中に約300mが竣工する予定となつており、測量設計も、今年度は450m分を発注している。今後も、引き続き改良していく計画である。

### ◎保育所について

#### ○耐震診断と耐震補強について

○国が昨年実施した「児童福祉施設等の耐震化に関する調査結果」をみても、児童福祉施設等の耐震診断実施率は、3割程度、耐震化率は6割程度に留まっている状況であり、耐震化が進まない理由として財政上の問題があげられている。

当町の保育所では、7保育所の

うち、みどり保育所が、昭和54年度の建築であり、対象となっているが、逼迫した財政事情等もあり、現在のところ耐震診断を実施していない状況である。

保育所を利用して子どもたちの安心・安全を確保するために、大変重要な問題であるので、今後、鬼北町耐震改修促進計画等の中で十分検討し、次代を担う子どもたちのために、安全で快適な保育環境が提供できるよう努めていきたいと考えている。

### ◎介護労働者の労働条件向上について

#### ○介護報酬引き上げに向けての国・県への働きかけについて

○介護報酬は厚生労働大臣が定める基準により算定されることとなつており、政府・与党会議、経済対策閣僚会議で、平成21年度からプラス3%の報酬改定および介護人材等の確保対策が決定されているところである。

介護報酬を引き上げるとは、その代償として介護保険料の引き上げならびに保険者である町の一般財源負担が増加することとなり、保険者の立場としては、むやみに介護報酬の引き上げを声高に唱えるわけにはいかない。

ただし、適正水準の確保は必要であるという認識はしているので、機会を捉え、国・県に働きかけをしていきたいと考えている。

○介護労働者を支援する立場での行政の取り組みについて。

○保険者たる行政の立場として、介護保険制度の適正な運用が第一に課せられた使命と考えている。町としては「人員・指定基準・運営に関する基準等」の指定基準に関するところは、各事業所を指導する立場にあり、その範囲内での指導・助言は可能であるが、介護労働者の待遇は事業所との雇用契約に基づいて決定されており、保険者の指導範囲外である。

事業所に所属する労働者の待遇が、最低賃金法や労働基準法に抵触する場合は、労働基準監督署等の労働行政所管機関の指導により改善することは可能であるが、適法に実行されている場合の待遇改善は、制度改正に委ねざるを得ないものと考えている。

### ◎きじ肉について

#### ○販路拡大について

○きじ事業は、平成13年に第1加工場・平成16年に第2加工場が整備され商品開発に取り組んできた。

その後、平成18年9月には、「えひめ愛フード推進機構」より「愛あるブランド」の認定を受け、平成19年9月には、ビール大手会社の全国キャンペーン「愛媛県代表食材」に採用、更に本年3月には、茶道裏千家の春の茶会で、熟成鬼北きじ商品が採用されるなど、ようやく全国に認知されはじめています。

#### ○鳥インフルエンザについて

○飼育農家も徐々にではあるが

冬になると取り上げられている鳥インフルエンザ等の伝染病対策が、農家の最大関心事となっている。

本年5月に、愛媛県議会の農林水産および経済企業両委員会の視察の折にも、農家の心配事としてお話ししていた。その後、県および国とも協議を重ねてきたが、家畜伝染病予防法施行令に鳥インフルエンザ対象としてきじが追加され、平成20年11月19日公布・平成20年12月20日施行となることが決まった。

なお、農家の技術向上を目的に、年数回の研修会を行うなど品質向上を目指している。また、飼料の高騰対策を共同で行いながら、自給飼料の生産にも取り組んでいる。

#### ○高校等との連携について

○北宇和高校生産食料科畜産加工班の生徒による地元特産品である熟成きじ肉とコメ粉で、きじ肉マンの開発がなされ、日本学校農業クラブ大会に出場し、県大会・四国大会を最優秀賞で勝ち抜き、全国大会でも優秀賞に輝くなど大いに活躍をされ、当町特産品の知名度アップにご貢献いただいた。

その後、地方局有志職員と当町職員で松山市の3つの大学学園祭で試験販売を行った。現在、商工会と協力しながら農商工連携で、「きじ肉マン」の商品化に向かって地元商店と協議を進めている。